

学校評価シート（自己評価）

松山南

幼稚園

1、園の教育目標

(教育方針)

心身共に健全な幼児の発達のために適切な環境のもと集団生活を通して幼児の自主性を育み豊かな人間性を養うべくこの時期に必要な諸能力の開発を助長し時代の変化に対応できる未来の子どもを育てる幼児教育を推進する。

(教育目標)

丈夫なからだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

2、具体的な目標や計画

(重点的に取り組むべき目標や計画)

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を踏まえ安心安全な生活を配慮する中で、子どもたちがより豊かにのびのびと活動ができるように、活動の展開に応じて遊びが広がっていくような環境構成を計画していく。また、一人ひとりの幼児を受け入れながら発達の姿や課題について理解し援助していく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
I 保育の計画性	A	・1年間を通して予想される子どもの姿を考えて計画や保育の準備をすることができた。 ・臨機応変に変更や改善し子どもの成長に合わせたカリキュラムでおこなうことができた。
II 保育の在り方・ 幼児への対応	A	・身近なものを使って様々な遊びを経験できるように工夫をした。 ・教師だけの考えではなく子どもたちの提案を取り入れ保育を進めていった。 ・体調の変化や小さな傷があれば子ども自身に話を聞くようにしている。 ・園庭遊び等縦割りの中で子ども同士のトラブルや怪我があった時には教師同士で共有し対応している。

IV 保護者への対応・守秘義務	A	・子ども同士のトラブルやいつもと違う変化があった時は保護者に伝えるようにしており、内容について記録をとっている。 ・保護者からの相談があった時は、敏速に対応するよう常に心掛けている。 ・秘密情報の管理をし、個人の情報について許可なく開示、漏洩していない。
V 地域の自然や社会とのかかわり	B	・園庭の掃除のときや園外で地域の方と出会うときは気持ちよく挨拶するよう心掛けた。 ・実習生や職場体験の高校生を受け入れるときは意義や方針を理解し、指導している。また、話を聞くことで客観的な気づきなどを知ることができた。 ・近くの小学校の生徒が授業で幼稚園に来る機会が得られた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	・今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の措置を取りながらの保育計画や活動にはなってしまったが、昨年のことを踏まえ少しでもできる活動の工夫を考慮することで、活動に幅が広がった。お遊戯会では、年少組の前半の部と年中と年長の後半の部の2部制で行うことにより、時間の調整ができたことから合唱や藤組の合奏も披露することができた。藤組の保護者については着物の着付けの練習の為の時間を事前にとることもでき園内に入る機会が設けることができた。 ・保育参観では保護者1名の規制はあったが各教室に入っの参観を3年ぶりに開催することができ、今まで知り得なかった園での子どもの姿を見ていただけたことにより園・担任と保護者の連携がとりやすいものになった。 ・近隣の小学校の生徒が「まち探検」という授業の一環で幼稚園に来園する機会が得られた。幼稚園の仕事に興味を持ち2年生の生徒からの質問に答えたりしたが卒園児も多数いたことから卒園後の生活や学習の様子を伺うことができた。 ・満三クラスでは、22名で例年に比べ多い人数の中言葉があまり出ずうまく伝えられないときはその時々の子どもの気持ちに寄り添って対応し、信頼関係を築くことができた。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
I 保育の 計画性	・ 日常の保育の中で互いの保育を見せ合う機会を作り各クラスの保育内容を確認し合い互い良い指導を伸ばせるようにするとともに保育の振り返りを大切にしていく。
Ⅲ 保育者の資質や能力・良識適正	・ 保護者に対し幼児のことや保育のことを伝えていく中で信頼関係を作ることを努めていく。 ・ 幼児教育や保育に関する情報を日ごろから得られるようアンテナをたかくしていく。
V 地域の自然や 社会とのかかわり	・ 今までコロナ禍で外部との関わりが持てない状態だったが、今年度はこどもフェスタに参加することができたのでさらに地域の活動にも目を向け、情報を得たり、参加したりする。 ・ 近隣の小学校との交流を深め就学に対する不安を取り除き自信をもって入学できるようにする。 ・ ボランティアを受け入れ、園に対して理解、親近感を得られるようにする。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	・ 今年度から比企地区の幼稚園の研修会が3年ぶりに復活し保育実践研修会に学期ごとに参加することができた。半数が初めての参加であったので、さらに自己課題をもって確認し自分なりに考えをまとめて臨むようにする。 ・ 子どもたちの安心安全の危機管理についての在り方をひとり一人の教師が興味関心を持つようにする。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 2023 年 3 月 28 日（火）

10 時～11 時 （時間）

出席者 評価委員（ 4 ） 人

評価委員（4）人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策が必要の中、目標、計画をしっかりと立て、また、幅広い項目で設定されており、適切だったと考える。

2. 評価結果の内容は適切であったか

設定した目標・計画・評価項目に従って適切な結果であると考えます。

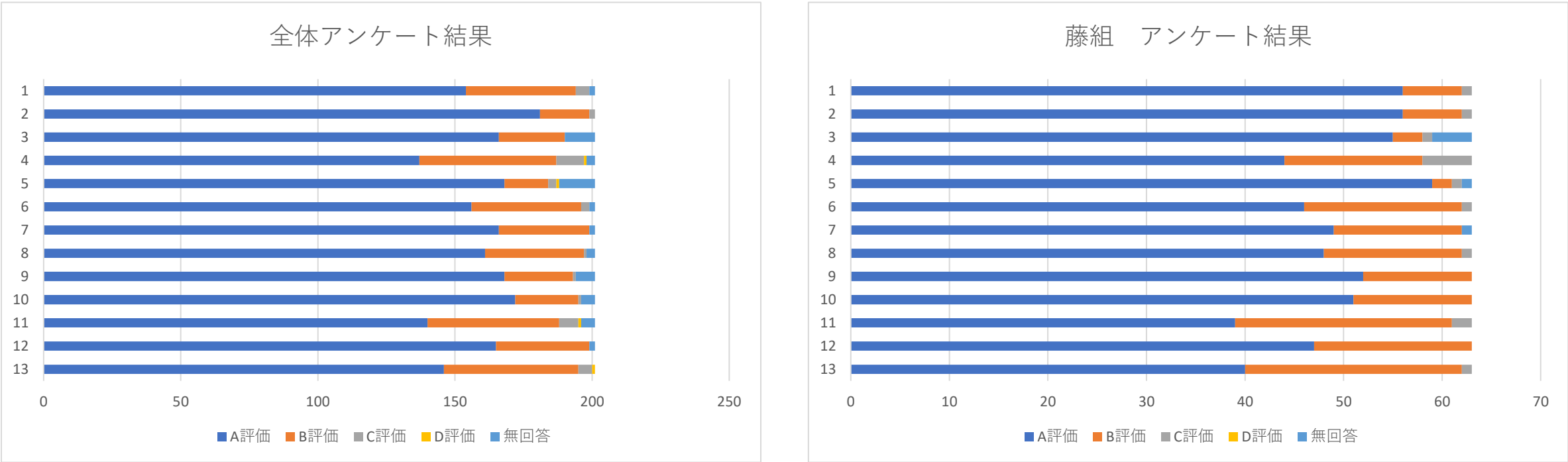
3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

少しずつ外部との関わりが持てるようになってきている中で、今後取り組むべき課題が設定されている点においては適切であると考えます。加えて保護者アンケートの結果から数値が低い部分も課題として取り入れていくと良いと思う。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

令和4年度は保育参観も開催され、保護者は少しずつ園での子どもの様子を見ることができた。保育者も対面での研修会が復活し、他園の先生方との関わりを持てたことで、今までと少し違った視点で保育を行うことができるようになるのではないかと考える。
少しずつ外部との関わりが戻ってくることによって、今後取り組むべき課題が適切に行われていくのではないかと考える。

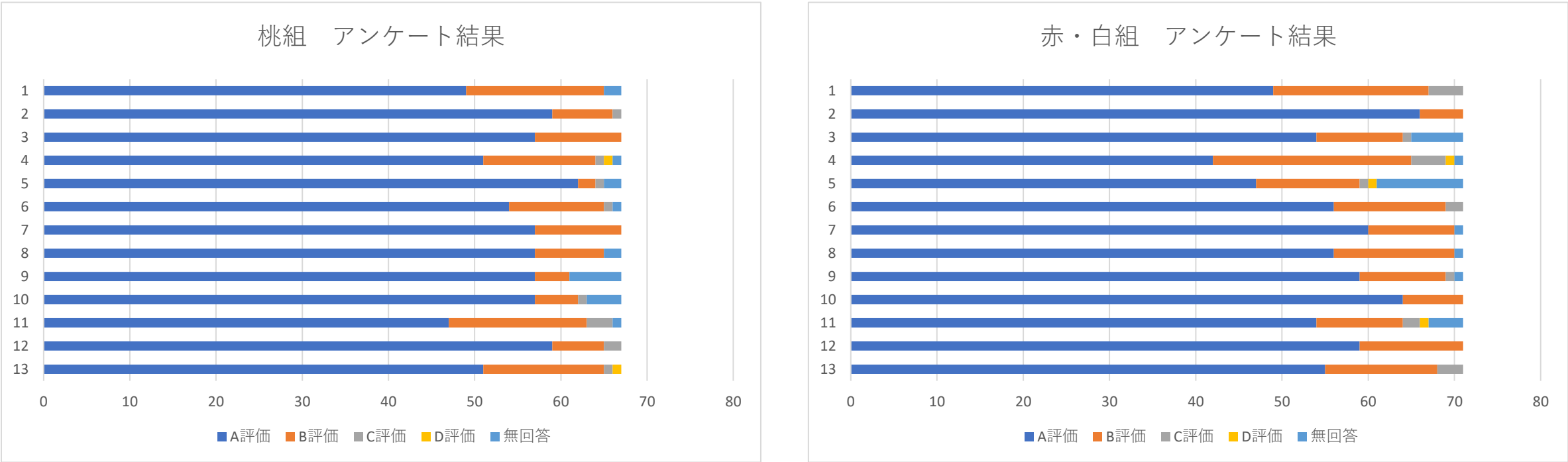
自己評価にあたって保護者アンケート結果



番号

アンケート内容項目

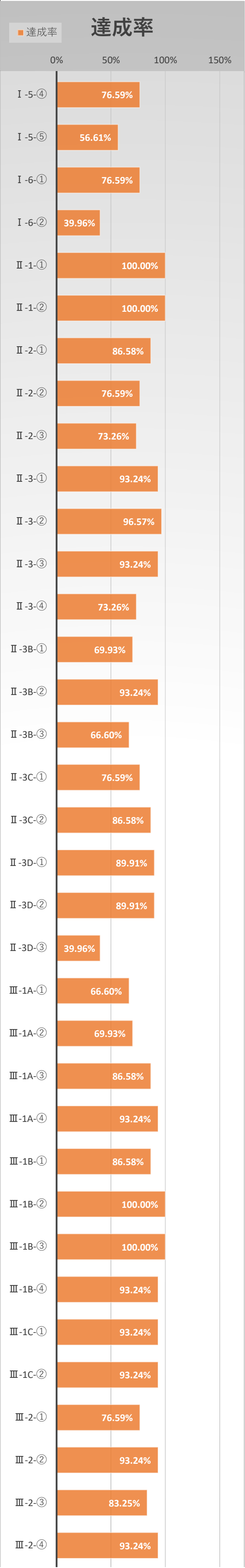
- 1
- お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしている
- 2
- お子さんは先生を慕っている
- 3
- お子さんは幼稚園で友達との関わりを楽しんでいる
- 4
- お子さんは幼稚園の出来事を家で話している
- 5
- お子さんは諸行事に喜んで参加している
- 6
- お子さんは幼稚園生活で自主性がめばえたと思う
- 7
- 教師は子ども達の良い所を見つけ伸ばそうとしている
- 8
- 教師はお子さんの幼稚園生活をよく見てくれている
- 9
- 教職員はお子さんの健康や安全確保に努めている
- 10
- 幼稚園の雰囲気は明るい印象が感じられる
- 11
- 幼稚園と保護者の連携がとれている
- 12
- 幼稚園は環境設備に配慮している（園舎・園庭・遊具など）
- 13
- 幼稚園のおたより、通信などわかりやすく伝えている



自己評価結果

項目番号	大分類	中分類	項目	達成率
I -1-①	保育の計画性	1.園の教育理念・教育方針の理解	園の教育理念や教育方針を理解し共感している	I -1-①73%
I -1-②			園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる	I -1-②56.61%
I -2-①		2.幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解	幼稚園教育要領、幼児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	I -2-①59.94%
I -3-①		3.教育課程の編成と評価	園の教育課程は、幼稚園教育要領・保育所保育指針をふまえ園の教育理念・教育方針に従い編成している	I -3-①83.25%
I -3-②			1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している	I -3-②83.25%
I -3-③			園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	I -3-③66.60%
I -4-①		4.指導計画の作成	指導計画は、幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	I -4-①83.25%
I -4-②			行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている	I -4-②76.59%
I -5-①		5.環境の構成	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	I -5-①86.58%
I -5-②			楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	I -5-②83.25%
I -5-③			幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている	I -5-③66.60%

項目番号	大分類	中分類	項目
I -5-④			幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている
I -5-⑤			異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている
I -6-①		6.保育と計画の評価・反省	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている
I -6-②			お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている
II -1-①	II 保 育 の 在 り 方 、 幼 児 へ の 対 応	1.健康と安全への配慮	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確かめている
II -1-②			体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している
II -2-①		2.幼児のみとりと理解	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している
II -2-②			一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる
II -2-③			個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる
II -3-①		3.指導とかかわり〔心のよりどころとして〕	幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている
II -3-②			幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている
II -3-③			幼児の話をよく聞くようにしている
II -3-④			“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている
II -3b-①			幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイディアを提供している
II -3b-②			幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている
II -3b-③			禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている
II -3c-①			幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている
II -3c-②			障がい児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている
II -3d-①		4.保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している
II -3d-②			指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている
II -3d-③			他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている
III-1a-①	III 保 育 者 と し て の 資 質 や 能 力 ・ 良 識 ・ 適 性 一 専 門 家 と し て の	1a.専門家としての能力	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている
III-1a-②			保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている
III-1a-③			保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている
III-1a-④			保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している
III-1b-①		1b.良識とマナー	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている
III-1b-②			朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている
III-1b-③			園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない
III-1b-④			服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている
III-1c-①		1c.義務	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している
III-1c-②			締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている
III-2-①		2.組織の一員としての在り方	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる
III-2-②			子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している
III-2-③			当番や役割による仕事を理解し確実にしている
III-2-④			上司の指示、命令には責任を持って実行している



項目番号	大分類	中分類	項目	達成率				
				0%	50%	100%	150%	
Ⅲ-3-①	能力	3.まわりを感じ取れる感性・アンテナ	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	Ⅲ-3-①	66.60%			
Ⅲ-3-②			社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	Ⅲ-3-②	69.93%			
Ⅳ-1-①	Ⅳ 保護者への対応・守秘義務	1.情報の発信と受信	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	Ⅳ-1-①	46.62%			
Ⅳ-1-②			クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている	Ⅳ-1-②	76.59%			
Ⅳ-1-③			個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合い共通理解を得るように努めている	Ⅳ-1-③	76.59%			
Ⅳ-1-④			子どもにとってよりよい環境づくりに努めている	Ⅳ-1-④	36.63%			
Ⅳ-1-⑤			保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	Ⅳ-1-⑤	83.25%			
Ⅳ-1-⑥			子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	Ⅳ-1-⑥	83.25%			
Ⅳ-2-①		2.協力と支援	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている	Ⅳ-2-①	86.58%			
Ⅳ-2-②			必要な場合は、自園の問題の対応や手段について保護者に説明できる	Ⅳ-2-②	33.30%			
Ⅳ-3-①		3.守秘義務の遵守	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	Ⅳ-3-①	100.00%			
Ⅳ-3-②			秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	Ⅳ-3-②	100.00%			
Ⅳ-3-③			秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	Ⅳ-3-③	96.57%			
Ⅳ-3-④			秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し,書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている	Ⅳ-3-④	96.57%			
Ⅳ-3-⑤			秘密情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	Ⅳ-3-⑤	96.57%			
Ⅳ-3-⑥			秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している	Ⅳ-3-⑥	89.91%			
Ⅳ-4-①		4.対応上のマナー・良識	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	Ⅳ-4-①	69.93%			
Ⅳ-4-②			親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	Ⅳ-4-②	93.24%			
Ⅳ-4-③			電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	Ⅳ-4-③	83.25%			
Ⅳ-4-④			保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	Ⅳ-4-④	93.24%			
Ⅳ-4-⑤			長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	Ⅳ-4-⑤	66.60%			
Ⅳ-4-⑥			保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	Ⅳ-4-⑥	96.57%			
Ⅳ-5-①		5.クレームへの対処の仕方	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	Ⅳ-5-①	96.57%			
Ⅴ-1-①	Ⅴ 地域や社会とのかわり	1.地域の自然・人々とのかわり	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	Ⅴ-1-①	59.94%			
Ⅴ-1-②			地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	Ⅴ-1-②	39.96%			
Ⅴ-1-③			子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している	Ⅴ-1-③	33.30%			
Ⅴ-1-④			実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	Ⅴ-1-④	79.92%			
Ⅴ-2-①		2.小学校との連携	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	Ⅴ-2-①	93.24%			
Ⅴ-2-②			小学校の教育内容について理解するよう努めている	Ⅴ-2-②	63.27%			
Ⅴ-2-③			小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている	Ⅴ-2-③	43.29%			
Ⅴ-2-④			卒業した子どもの情報を得よう努めている	Ⅴ-2-④	33.30%			
Ⅴ-2-⑤			小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている	Ⅴ-2-⑤	63.27%			
Ⅵ-1-①	Ⅵ 保育者の	1.研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	Ⅵ-1-①	66.60%			
Ⅵ-1-②			自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている	Ⅵ-1-②	66.60%			
Ⅵ-2-①		2.遊具・教材に関する専門	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	Ⅵ-2-①	86.58%			

項目番号	大分類	中分類	項目
VI-2-②	専門性に関する研修・研究への意欲・態度	性の向上	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる
VI-3-①		3.園内の環境に関する専門性の向上	園舎の構造（平屋、二階建て）や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している
VI-3-②			園庭や田畑、砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている
VI-4-①		4.今日的課題に関する専門性の向上	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている
VI-4-②			アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている
VI-4-③			幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている
VI-4-④			こどもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている
VI-5-①		5.自らを高めるための学習	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある
VIII-1-①	おVIIIてける支援地域育に	1.自園の子育て支援事業の理解（全教職員）	地域開放(親子保育園体験日・行事など) について職員間で共通理解の上取り組んでいる
VIII-1-②			自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる
VIII-1-③			親しみやすい雰囲気心を心がけ、利用者に積極的に声をかけている

